



2024.3

発行

宝塚市
社会福祉
協議会

まちづくり協議会 活動事例集 Vol.2

ネットワーク会議編



まち協の皆さんにお聞きしました！**ネットワーク会議**って？

ネットワーク会議って
どんな場ですか？

地域みんなが語り合い、つながりあえる場になっています。
様々な考え方を聞くことができ、
今後の取り組みのアイデアが生まれます。



どんな人が参加
されていますか？

テーマにあわせて、自治会や民生児童委員、福祉専門職、
教育機関、まちのお店などが参加しています。
また、掲示板を見て参加してくれた人もいます。
困りごとを抱えている本人にも参加いただく
ことで、生の声が聴けるよう工夫しています。



参加してもらうための
工夫はありますか？

テーマを決めるときに、こんな人に来てほしいねとみんなで
話し合っています。
ぜひ来てほしい人には直接顔を見て
お誘いするようにしています。



ありがとうございました！

皆さんのまちを良くするしくみの
一つとして、ネットワーク会議を
活用されているのが分かりました。

様々な団体の活動する中での気づきを
話し合うことで、一歩ずつ誰もが住み
やすいまちに進んでいるんですね。

次のページからは、
「話し合いをきっかけとした
まちづくり」の進め方について、
具体的な事例を紹介していきます！！

今回ご紹介する事例での話し合いの流れ





開催概要

開催主体：まち協福祉部
 人数：約30名
 参加メンバー：自治会・
 サロン・民生児童委員・
 PTA・福祉事業所・
 児童館・相談支援事業所・
 民間事業者（銀行、スーパ
 ー、建築会社）

コミュニティ安倉のネットワ
 ーク会議（あくらの未来を考
 える会）では、安倉のまちで気
 なることを話し合い、「まちの
 ゴミが多い」という共通課題が
 出ました。以前より気になっ
 ていた住民も多く、みんなで力
 を合わせて何とかしよう！とい
 うことになりました。

2回目・3回目の話し合いで
 は、安倉地区にある公園の情
 やごみの状況、みんなのでき
 ことを話し合い、清掃活動イ
 ベント『あくらクリーンミッシ
 ョン』の第1弾を安倉中公園で実
 施することになりました。

福祉事業所

清掃活動は障害の有無に
 関わらず、誰もができる
 社会貢献だと思う。



民間事業者

地域の困りごと
 は企業と一緒に
 考えます！



児童館

大人だけでなく子どもと一緒に
 地域活動に参加することが、
 将来的にも大切なこと。

当日は児童館の子ども達
 や障害の当事者、民間事業
 者など様々な立場の人が参
 加し、清掃を通じて、公園
 の美化について意識して考
 えることができました。

この活動により、「せっ
 かくきれいにした公園を活
 用しよう」という人が増
 え、『綺麗なまち、安倉』
 の輪の広がりにも期待する
 声があります。

今回は「まちのゴミが多
 い」という課題に対し、み
 んなで取り組むことができ
 ました。ネットワーク会議
 が「力を合わせる」きっか
 けづくりの場になりました。

ネットワーク会議での話し
 合いが、「地域みんなで
 力を合わせる」に
 つながったんですね！



話し合いの経過

Day1



まちづくり計画とも連動し、解決
 すべき重点項目を4つ挙げた。

Day2



公園やまちに落ちているゴミをどうし
 たら減らせるかアイデア出し。

Day3



地図を見ながら、校区内の
 公園について情報交換。

02 コミュニティすえなり

開催概要

開催主体：まち協福祉部
(テーマによって主体が
変わる場合もあり)
人数：約40名
参加メンバー：
自治会・サロン・民生児
童委員・PTA・保育園・
ケアマネジャー・障害
事業所・スクールソーシ
ヤルワーカー

多様な参加をきっかけに



まち全体に意識を広げる

より色々な立場の人に
参加してもらおうことで、様々な
団体のアクションにつながって
いるんですね!



様々な人に参加してもらい、同じテーマで
繰り返し協議、共有していくことで、
参加団体のそれぞれの活動を通じて、
まち全体に意識を広げてい
くことにつながっています。
そのような場として
ネットワーク会議の
場を活用しています。



住民一人ひとりの小さなつづ
やきなど、様々な思いを受け
止め、その思いを地域のつな
がりの中で実現できるよう、
そっと後押しする人や、その
活動そのものを「くらしの
パートナー」と呼び、誰もが
支え合える地域づくりに
取り組んでいます。

※「くらしの
パートナー」とは？

コミュニティすえなりでは、「まちづくり計画」をテーマにしたネ
ットワーク会議で「困っている人にすぐに気づける地域づくり」を目
指し、※「くらしのパートナー」を推進していくことになりました。
くらしのパートナーを推進していくために、より多くの関係者に理
解を得ることを意識しました。そのためにネットワーク会議を活用
し、自治会や民生児童委員、サロン活動者などの地域団体に加え、ケ
アマネジャーや保育園、障害事業所、スクールソーシャルワーカーな
ど、福祉の専門職にも幅広く参加してもらうことになりました。取り
組みの必要性や、それぞれの立場からできることを共有していく中
で、くらしのパートナーの必要性を未成の地域へ広く伝えていま
す。それにより、相談窓口の充実を図るなど、それぞれが日々の活動で
「困りごとに気づける地域」を意識するようになってきています。

「地域みんなの会議」での声を、
地域みんなに届ける。



コミュニティ西山では、ネットワーク会議の内容や、そこで上がった課題を広報誌で共有することを大切にしています。

ネットワーク会議の内容を広報誌を通して地域の人々と共有し、住民一人一人に意識を広げているんですね！

開催概要

- 開催主体：まち協役員
- 人数：約30名
- 参加メンバー：
自治会・サロン・民生児童委員・PTA・幼稚園・小学校・障害当事者

さらに広報誌に掲載することで、会議に出ていない住民にも意見の共有を図っています。

「障害の理解について」をテーマにネットワーク会議を開催した際には、西山校区にお住いの聴覚障害者の方から買物の際に困ることがあるという話題がありました。その課題を解決する手段として「コミュニケーション支援ボード」を普及しようとなりました。

聴覚障害の方だけの話ではないと共感が生まれ、「たくさんの人に知ってもらうことで、買物での困りごとが少しでも減れば」との思いから、会議の内容を広報誌の1面で紹介しました。

この広報誌をきっかけに、コープ宝塚店では、ボードを利用する方がより手に取りやすいような工夫をしてもらえるようになりました。

その後も、ネットワーク会議で出た意見を幅広く周知していくことを意識して取り組んでいます。



コミュニケーション支援ボードとは

聴覚障害、言語障害、知的障害のある方、高齢の方、外国人の方など話し言葉によるコミュニケーションに不安のある方たちが絵や文字を指さして使用するコミュニケーションツールのことです。